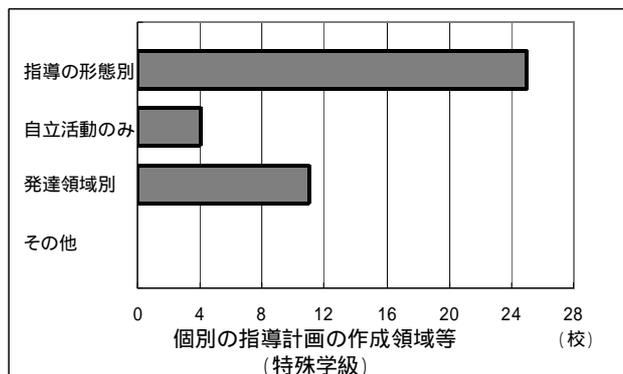
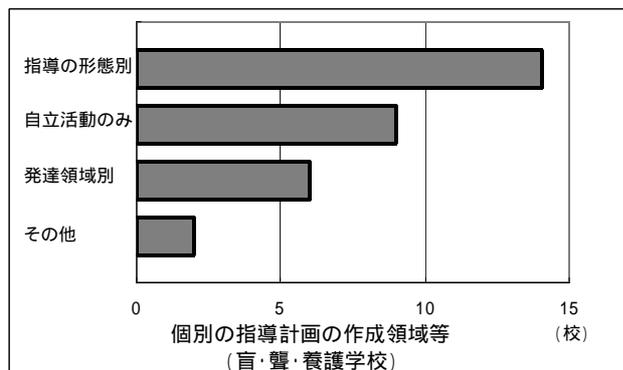
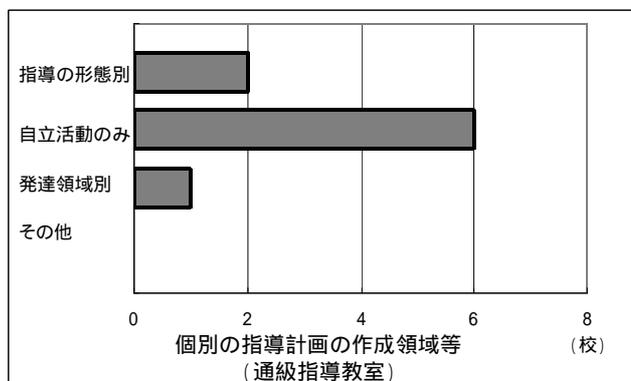


作成の領域等

【問】個別の指導計画はどのような領域等で作成していますか。（複数回答）



盲・聾・養護学校，特殊学級においては，教科や生活単元学習といった指導の形態別に作成するという回答が多い。また，盲・聾・養護学校では自立活動のみの個別の指導計画も併せて作成している学校も多い。通級指導教室においては，その設置の形態から，自立活動のみ作成している教室が多く，それぞれの学校で活用しやすい様式を工夫していることが分かる。

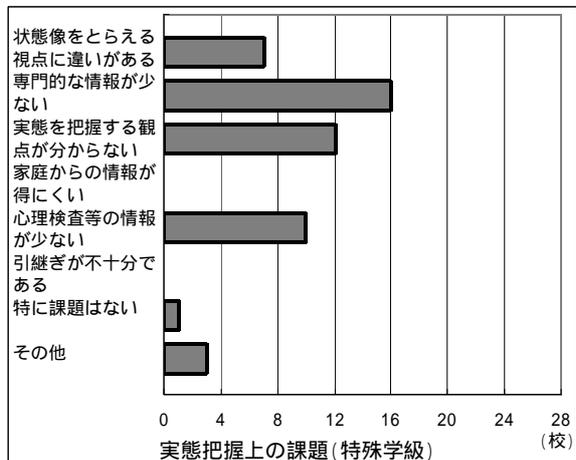
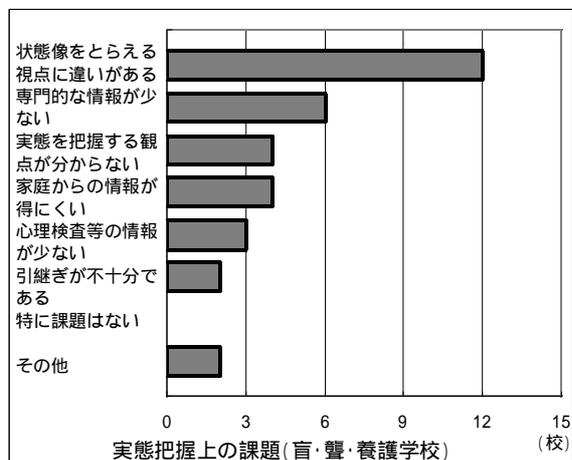


実態把握における課題

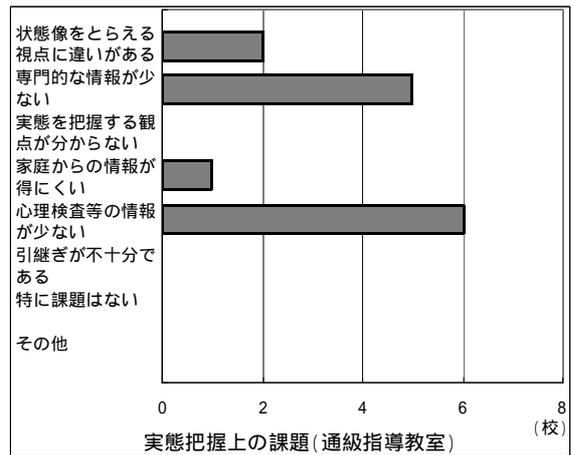
【問】児童生徒の実態把握をする上で，どのような課題がありますか。（複数回答）

指導計画を作成するに当たっては，児童生徒の的確な実態把握が必要となる。調査結果から，盲・聾・養護学校，特殊学級，通級指導教室共に，児童生徒の実態を把握する上で何らかの課題を抱えていることが分かる。

盲・聾・養護学校においては，指導計画の作成を複数の教員で行うことが多いが，実態把握の段



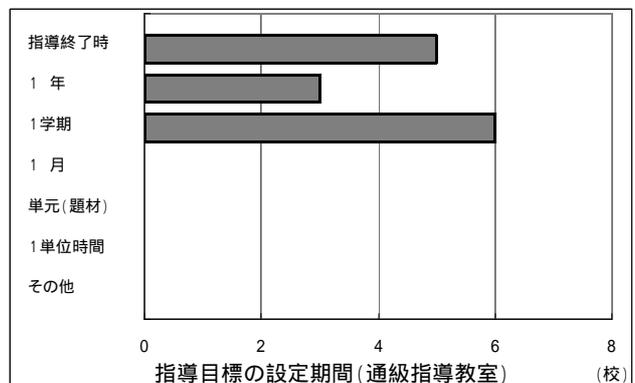
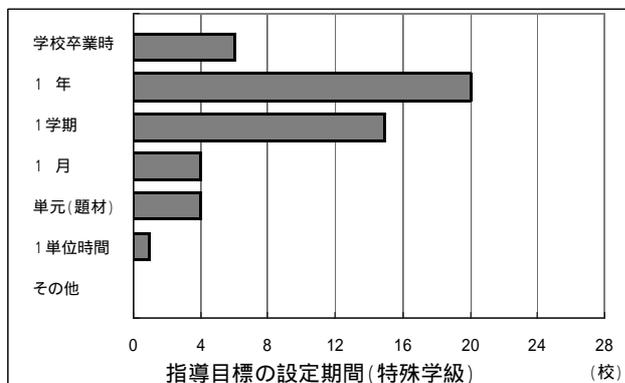
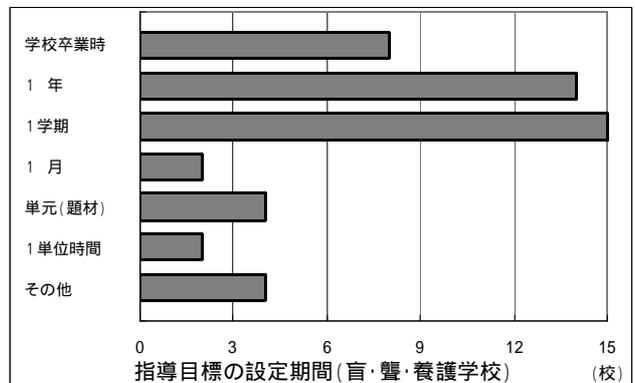
階で、教員それぞれに児童生徒の状態像をとらえる視点が違うことが課題となっている。一方、特殊学級では担当者一人で作成する機会が多いため、障害についての専門的情報が得にくく、また、どのようにして実態を把握してよいか困惑している状況がうかがえる。通級指導教室では、実態を把握するための専門的な検査を実施するが、その分析や解釈が課題となっている。



目標設定の状況

【問】指導目標は、どのような期間等で設定していますか。(複数回答)

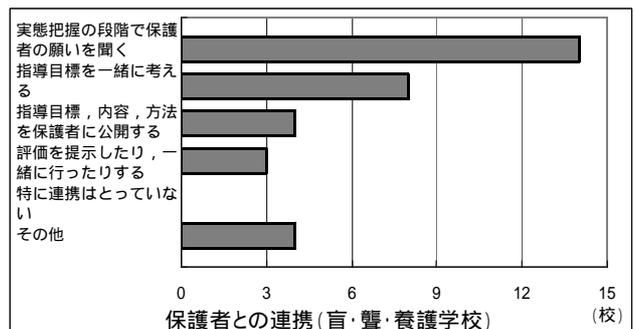
目標設定の期間については校種を問わず、長期目標を1年間、短期目標を1学期間に行っている場合が多いようである。個別の指導計画を授業レベルで活用しようとするならば、単元や題材ごと、1単位時間ごとの目標設定が必要である。しかし、そのような期間で設定する学校は少なく、指導計画の十分な活用には至っていないと考えられる。



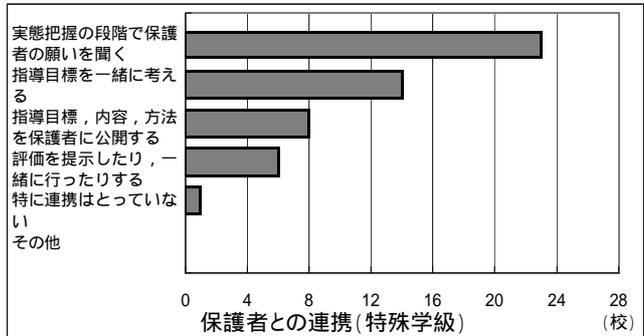
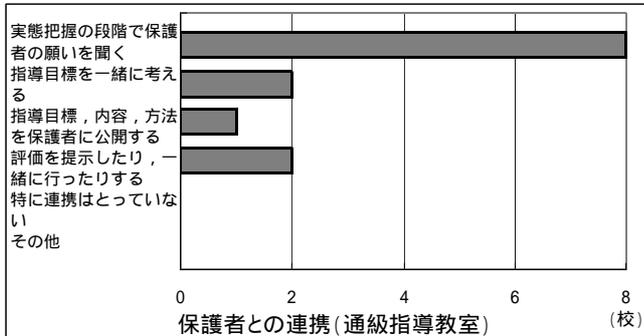
保護者との連携

【問】個別の指導計画の作成、実践において保護者とどのような形で連携をとっていますか。(複数回答)

盲・聾・養護学校、特殊学級、通級指導教室共に、保護者の願いや要望を組み込んだ指導計



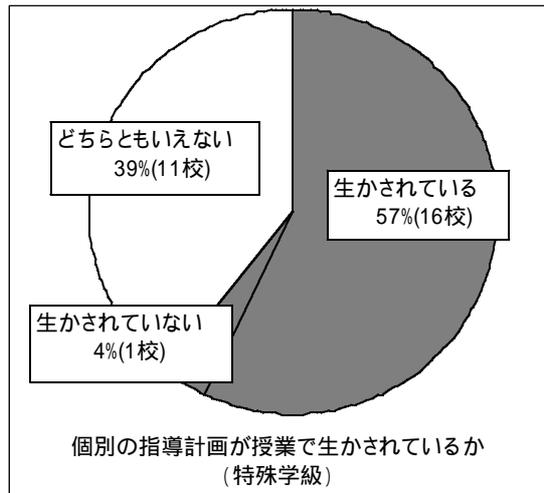
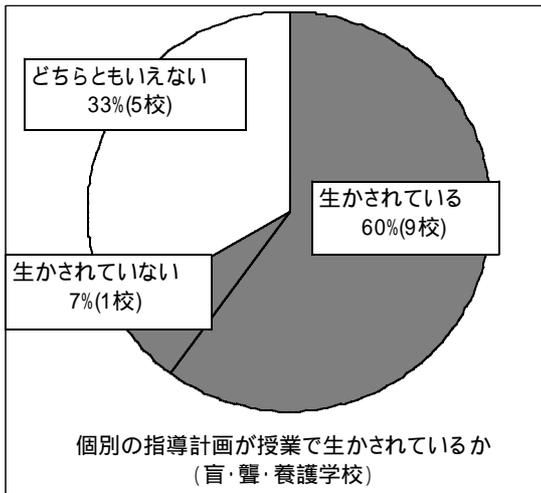
画作りを進めている様子が見えてくる。また、保護者との連携を密にする工夫として自由記述を求めたところ、毎日の送迎時の情報交換、連絡帳の活用、学級通信や学校通信の活用、定期的な授業参観の実施などの工夫を行っている状況である。個別の指導計画の修正・見直しの作業を、年2回保護者と共に行うという回答もあった。しかしながら、指導目標や指導内容を共有したり、保護者による評価を行ったりするという回答は少なく、充実した連携が図られているとは言い難い。



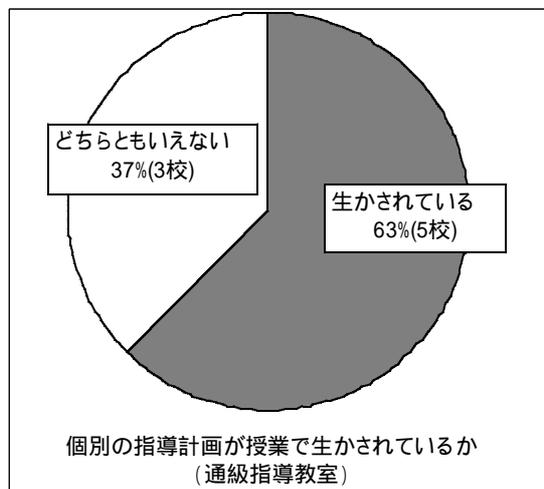
(3) 個別の指導計画に基づく授業実践

授業での活用

【問】個別の指導計画が、実際に授業に生かされていると思いますか。



実際の授業場面での活用については、盲・聾・養護学校、特殊学級、通級指導教室ともに過半数の学校が授業場面で生かされていると回答した。作成段階における実態把握を通して児童生徒の実態把握がより深まったこと、課題や目標が明確化して指導者側に意識付けがなされたことなどが影響を与えているものと考えられる。一方、「どちらともいえない」とする学校があることから、活用について課題を抱えているか、現在の活用のレベルに満足せずに、更に活用したいと考えてい



る学校もあると思われる。

活用の工夫

【問】個別の指導計画を授業に生かすために、どのような工夫をしていますか。あるいは、どのような工夫が必要であると思いますか。(自由記述)

主な回答を以下に示す。

- ・ 個別の指導計画の定期的な修正・見直しを行う。
- ・ 複数の職員による作成，評価を行う。
- ・ 個別の指導目標や内容について学部内，学校内の共通理解を図る。
- ・ 事例研究や校内研修を実施する。
- ・ 日々の授業の記録を取るようになる。
- ・ 目標を具体的に設定して評価できるようにする。

全体的にみて回答が少なかったが，校内の職員の共通理解，指導計画の積極的な修正などの工夫がみられる。また，目標を具体的に記述することによって評価を行いやすくする，授業記録を活用して次の授業の改善につなげるなどは，他の学校にも参考になる取組である。

活用における課題

【問】個別の指導計画が授業に生かされていない原因は、どのようなところにあると思いますか。また、どのような解決法があると思いますか。(自由記述)

主な回答を以下に示す。

<原因>

- ・ 個別の指導計画の内容が児童生徒の実態に合っていない。
- ・ 学習指導案と関連付けることが難しい。
- ・ 引継ぎがうまくなされずに，記述された内容を授業に生かしきれない。

<解決法>

- ・ 指導の形態や教科ごとに，実態に即した計画を作成する必要がある。
- ・ 年間の最優先課題（中心課題）を設定し，領域・教科の中で具体化して達成できるようにする必要がある。
- ・ 職員一人一人が児童生徒の長期目標を意識し，日々のかかわりを考え実践する必要がある。

全体的に回答が少なく，原因だけあるいは解決法だけの回答が多かった。実態把握や記述内容などの課題については，指導計画の作成の方法や手順を整理し，示していく必要があると考えられる。また，個別の指導計画と学習指導案との関連，授業レベルでの目標設定の在り方などについても情報を提供する必要があると考えられる。